

中国が米国の F-117A 型ステルス攻撃機の模型を製作

漢和防務評論 20110218

KDR バンコク特電：

中国洛陽に F-117A 型ステルス攻撃機の模型を発見した。これは、米国の IMINT 分析サイトが最初に発見した。

F-117A の長さは 20M、翼幅は 13.20M、洛陽に出現した F-117 の模型は長さが 20M、翼幅は 10M である。衛星写真による寸法測定は、10M 以内の誤差が出るのは普通だ。したがってこの F-117A の模型はフルスケール模型であろう。中国がひたすら米軍を研究対象にしていたことは疑いがない。この写真は、2010 年 5 月 19 日に撮影された衛星写真であり、2007 年に撮影された衛星写真には F-117A の模型は写っていない。その理由は工場内である種の試験を行っていたからかもしれない。洛陽では、誰が F-117A の模型を製作したのであろうか？このため工場の所在地を正確に把握する必要がある。F-117A の模型が置かれていた場所は、九都路と芳林路の交差点から 2 時 20 分の方角であり、距離は芳林路への入り口から直線距離で 520M である。正門はない。これは某研究所の後方に位置する。正門は、凱旋西路にある。

洛陽には、2 つの重要な航空工業研究所がある。1 つは 613 研究所で凱旋西路 25 番地にある。もう 1 つは 612 研究所で、解放路と九都路が交差するところにあり場所は完全に明らかになっている。

613 研究所は、戦闘機の火器管制装置、ヘルメット照準具、赤外線照準器 (IRST) などの重要部門を専門に研究する。612 研究所は、空対空ミサイルの開発を行う。しかし衆知のように F-117A はレーダーを装備せず、赤外線探知装置のみを装備する。

特に注意すべきことは、F-117A がユーゴでセルビア人によって撃墜されたことである。KDR が掌握した確実な情報によると、セルビア人は F-117A の残骸の一部を中国に提供し、中国はステルス材料の開発に用いた。これが中国が短期間でステルス材料を開発できた理由であり、F-117A が早期に退役した理由の 1 つである。

613 研究所は、なぜフルスケールの F-117A を製作したのであろうか？これは、明らかに風洞試験や電磁環境試験に用いるためではない。613 研究所はこのような作業を行う研究所ではない。

推測できる若干の理由は次の通りである。

1. F-117A のようなステルス攻撃機を探知できるかどうか、中国が自力開発した赤外線照準装置の性能を試した。(この推測は根拠が弱い)
2. 自力開発した F-117A の赤外線照準装置に類似した装置 (IRST) を F-117A の模型に取り付け技術的評価をした。当然 IRST も模型である可能性がある。
3. 中国は、セルビアが撃墜した F-117A の赤外線照準装置 (IRST) から、直接 IRST をコピー生産し、F-117A の模型に取り付け試験した。

中国が F-117A をコピーしているとの伝聞情報は、10 年前に中国軍内で出版された著書「中国は将来の戦争で勝利できるか」のなかにすでに記載されていた。真実ではないであろう。どうであろうと 613 研究所に出現したフルスケール F-117A の模型は、中国が F-117A を研究していることを明確に示している。しかも F-117A はすでに退役しているので、実戦で F-117A を撃墜するための研究ではない。

以上